

身体診察評価マニュアル

【患者への配慮】

1. 開始時に診察をする旨を告げ了承を得る
告げていれば1点。告げなかった場合は0点。
2. 諸診察に合わせて適切に声をかける
ほとんどすべての診察で適切に声をかけていれば2点。一部で声をかけた場合は1点。全く声をかけなければ0点。
3. 声をかけるときの言葉づかい
言葉づかいに問題が無ければ1点。問題があれば0点。
4. 手を温める
患者にふれる前に手を十分に暖めていれば1点。暖めなければ0点

【診察手技】

注) 患者に説明せずに診察している場合は、「診察しながら、所見を患者さんに説明してください」と繰り返し声をかけてください。

眼の診察

5. 眼瞼結膜の貧血を視診
眼瞼結膜の貧血を視診すれば1点。しなければ0点。
6. 眼瞼結膜の充血を視診
眼瞼結膜の充血を視診すれば1点。しなければ0点。
7. 眼球結膜の黄染を視診
眼球結膜の黄染を視診すれば1点。しなければ0点。

口腔内の視診

8. 流涎の有無を視診
口腔内の唾液貯留（咽頭痛が強いことを示唆する所見）の状態を視診すれば1点、しなければ0点。
9. 頬粘膜を視診
頬粘膜の視診をすれば1点。しなければ0点。
10. 咽頭粘膜を視診
咽頭粘膜の視診をすれば1点。しなければ0点。
11. 口蓋扁桃を視診
口蓋扁桃を視診すれば1点。しなければ0点。

頸部の診察

12. 後方の頸部リンパ節を触診

後方の頸部リンパ節（後頭、後頸、耳介後の各リンパ節）のほぼ全体を十分に触診すれば1点。触診しない場合や、一部しか触診しなければ0点。

13. 前方の頸部リンパ節を触診

前方の頸部リンパ節（耳介前、扁桃、顎下、オトガイ下、浅頸、深頸の各リンパ節）のほぼ全体を十分に触診すれば1点。触診しない場合や、一部しか触診しなければ0点。

14. 甲状腺を視診

甲状腺の視診をすれば1点。しなければ0点。

15. 甲状腺を触診

甲状腺のほぼ全体を触診すれば1点。触診しない場合や、一部しか触診しなければ0点。

16. 甲状腺の診察時に嚥下運動をしてもうらう

甲状腺の診察時に、少なくとも1回以上、嚥下運動をするように指示していれば1点。一度も指示してしなければ0点。

17. 頸部の圧痛の有無を触診

頸部を触診しながら、一度でも圧痛について確認すれば1点。一度も確認しなければ0点。

その他の診察

18. 皮膚を視診

顔面と四肢と体幹の3つ全てで皮膚を視診すれば1点。一部のみの視診で終了した場合、あるいは皮疹の診察を何もしなければ0点。

19. 鼓膜を視診

耳鏡を正しく使用して両側の鼓膜を視診すれば1点。耳鏡の使い方が誤っていたり、鼓膜の診察をしなければ0点。

20. 副鼻腔を診察

副鼻腔の圧痛あるいは叩打痛を診察で確認すれば1点。何も診察しなければ0点。

21. 呼吸音を聴診

呼吸音を聴診すれば1点。しなければ0点。

22. 心音を聴診

心音を聴診すれば1点。しなければ0点。

23. 腹部を触診

腹部を触診すれば1点。しなければ0点。

24. 肝脾腫を診察

肝臓と脾臓の両方を診察（打診あるいは触診）して、肝脾腫の有無を確認すれば1点。片方のみの診察で終了した場合、あるいは診察を何もしなければ0点。

25. 肝臓の叩打痛

肝臓の叩打痛を確認すれば1点。しなければ0点。

26. 頸部以外のリンパ節を触診

腋窩、肘関節滑車上、鼠径のリンパ節の1ヶ所以上を触診すれば1点。なにも診察しなければ0点。

27. 腎臓の叩打痛

両側の腎臓の叩打痛を確認すれば1点。片方しか診察しない場合や、何も診察しなければ0点。

28. 髄膜刺激徴候を診察

Neck Flexion Test、項部硬直、Kernig 徴候、Brudzinski 徴候などの手技で正しく診察すれば1点。診察方法が不正確な場合や、髄膜刺激徴候について何も診察しなければ0点。

【概略評価】

この身体診察全体の印象を6段階で評価して、番号に丸をつける。

【10分経過したら】

「3分たちました。あと1分です。」と、受験者に告げる。

【11分経過したら】

身体診察の途中であっても、「4分たちましたから、そこまでで終了しなさい。」と、受験者に告げる。ストップウォッチは止めない。

【身体診察が早く終了したら】

「まだ4分たっていませんが、身体診察を終了しますか。それとも続けますか。」と、受験者に問いかける。

→「続ける」と答えた場合は、「それでは、続けなさい。」と、受験者に告げて身体診察を再開させ、11分経過するまで続ける。

→「終了する」と答えた場合は、「追加の情報や課題をみますか。それとも4分経過するまで休みますか。」と、受験者に問いかけ、それに対する返事に沿って進める。

	評価者氏名				
	3	2	1	0	
	きわめて 適切だった	適切 だった	やや 不適切だった	きわめて 不適切だった	
1. マナーや態度は適切でしたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	とても良く 聴いて貰えた	聴いて 貰えた	あまり聴いて 貰えなかった	全く聴いて 貰えなかった	
2. あなたの話を耳を傾けて聴いて貰えましたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	とても良く 理解された	理解 された	あまり理解 されなかった	全く理解 されなかった	
3. あなたの話は正確に理解されたと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	とてもわかり やすかった	わかり やすかった	少しわかり にくかった	とてもわかり にくかった	
4. 医師の話はわかりやすかったですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	とても 快適だった	快適 だった	少し 不快だった	とても不快 だった	
5. からだの診察は快適でしたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	とても 良かった	良かった	少し 良くなかった	とても 良くなかった	
【概略評価】 6. 全体の印象として今回はこの医師に診てもらって 良かったですか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
特記事項					
[]
[]
[]
合計点	18点満点			点	

ステーション 2 (課題 3)

(試験開始11分後に提示する)

患者：丸山 隆(隆子) ○○歳 男(女)性

4 分間の残り時間で、面接と身体診察を参考に、本日の検査計画を立て、重要なものを5つ列挙しなさい。

ただし、身体所見で下記の異常があったとして考えなさい。

結膜：充血あり

口蓋扁桃：

2度に腫大し滲出物付着

頸部リンパ節：

両側の後頸リンパ節が3個ずつ

1—1.5cm大に腫大し圧痛あり

残り時間が1分間になったら知らせます。

検査計画：記入用紙

受験番号

受験者氏名

評価者氏名

本で行うべきと思われる検査項目を5つ列挙しなさい。

1.

2.

3.

4.

5.

検査計画と鑑別診断：採点基準

「血算」「血液像」「肝機能（AST、ALTあるいはGOT、GPT）」「溶連菌迅速検査」「EBウイルス抗体価」「咽頭培養」の中から1項目を記載する毎に5点を与える。

「リンパ節生検」は5点減点。

その他の記載については得点を与えない。

【14分経過したら】

「あと1分です。」と、受験者に告げる。

【終了の合図が鳴ったら】

解答の途中であっても、「終了の時間になりました。」と、受験者に告げる。

【解答の記入が早く終了したら】

「まだ終了の時間になっていませんが、先に終了しますか。それとも続けますか。」と、受験者に問いかける。

→「続ける」と答えた場合は、「それでは、続けなさい。」と、受験者に告げて解答を再開させる。

→「終了する」と答えた場合は、「では、終了の合図があるまで待ちなさい。」と告げて、そのまま終了の合図を待たせる。

解説

急性の咽頭炎の事例である。

咽頭痛が強い患者では、急性喉頭蓋炎などによる呼吸困難や嚥下障害など、危険な病態の有無をまず判断する必要がある。嚥下障害が生じると、口腔内に唾液が貯留し、更には流涎が出現する。

このような緊急性が無い事例の場合、成人の咽頭炎の初期診療で重要なのは、溶連菌感染による咽頭炎と、伝染性単核症の鑑別である。通常の咽頭炎には抗生剤療法は不要であるが、溶連菌感染による咽頭炎では早期からの抗生剤（通常は経口ペニシリン）投与が推奨されている。一方、伝染性単核症では、経口ペニシリンの1つであるアミノペンシリン（ABPC）は、高率に皮疹を生じさせるために禁忌とされている。また、予想される経過や注意すべき合併症が両者間で大きく異なるため、経過観察などの診療方針も違ってくる。これらの理由で、鑑別が必要になるのである。

この症例では、発熱があり扁桃に滲出物が見られるが、前頸部のリンパ節腫脹はないので、溶連菌感染の可能性は中等度と考えられる。このような検査前確率の場合には、溶連菌の迅速検査を行うことがある。迅速検査の感度が十分ではない場合や、その他の細菌感染を疑う場合などには咽頭培養をしてもよい。

一方、後頸部のリンパ節も腫脹していることから、伝染性単核症などのウィルス感染の可能性もあり、診断には白血球数や血液像の検査が有用である。また、伝染性単核症に合併しやすい肝障害についても、まずはAST、ALTなどの簡便な検査で有無を判定することが重要である。原因ウィルスを確定する目的でEBVなどの抗体価を測定することがある。リンパ節生検は、初診時に安易に行うべきではない。

ステーション 3 (課題 1)

患者：浮田 浩(浩子) ○○歳 男(女)性

ここは内科診療所の外来で、今は平日午前の診療時間です。

この患者さんが、動悸を主訴に受診しました。初診患者です。

急を要する状態ではありません。

まず、7分間で医療面接を行いなさい。(5分間経過した時点で合図します)

医療面接終了後に、次の課題を示します。

このステーション全体の制限時間は15分間です。

〈事例設定〉一（動悸）一

浮田 浩（浩子） ○○歳 男（女） 会社員

◇場面設定

1 か月前頃から、胸がドキドキする感じが続いている。以前よりも疲れやすくなった。仕事で疲れたのだろうと思っていたが、昨日丸1日家で休養したのに、良くならないので、なにか病気になったのではないかと心配になり、自宅近くの内科診療所を受診した。

◇患者の気持ち

心臓が悪くなって、運転中に心臓が止まったらどうしようかと思う。

◇現病歴

1. 何もさえぎられない時に自ら話す内容

（ゆっくりポツリポツリと）ここのところずっと、胸がドキドキしている。疲れがとれないが、仕事はなかなか休めない。心臓が止まったりしないだろうか。

注）「さえぎられた」かどうかを判断する時の注意点

（1）「相づち」「語尾の繰り返し」は「さえぎり」とはしない。

（例）Dr「なるほどね」

Dr「ふんふん、疲れやすくなった…」

（2）話の内容についてSPが話した直後にDrが確認するのは「さえぎり」とはしない。

（例）SP「…と言われたのは初めてなんです」

Dr「初めてなんですね」

SP「はい」

2. 医師から尋ねられたら話す内容

- いつからドキドキするようになったのか？ = 1 か月くらい前から
- どのあたりがドキドキするのか？ = ここです（と、左乳頭の下付近を手で押さえる）
- 一日中ずっと続いているのか？ 一時的（発作的）なのか？ = ずっと続いている
- ドキドキは規則正しいのか？ = 規則正しいように思う
- 痛みはないか？ 息苦しい感じはないか？ = 痛くはない、息苦しくはない
- ドキドキが強くなる状況は？ = 階段を昇ったりして体を動かした時
- 症状は変わってきているか？ = 少しずつドキドキがひどくなっているように思う
- その他の症状は？ = 疲れやすくなった
- 首が腫れていないか？ = よくわからない
- 目がパッチリとしてきていないか？ = 数日前に、同僚にそう言われた
- 汗をかきやすくなっていないか？ = 1 か月くらい前から汗が多い
- 食欲は？ = 以前と変わらない
- 体重の変化は？ = 1 か月で2 キロ減っている
- 便通は？ = 普通に毎日ある

- 熱は？ = 特に感じていない
- 手が震えることは？ = ない
- 自分でした対処は？ = 昨日は丸1日休養したが良くならなかった
- 心配なことは？ = 心臓が止まるのではないか

注) これら以外については、「特に問題ない」という旨の答を言う。

◇既往歴

1. 過去に経験した病気、怪我、入院、手術など

特に何もない

2. その他の情報

アレルギー：食物 = なし、薬 = なし

定期的に飲んでいる薬や健康食品など：なし

タバコ：吸わない

飲酒：月に1～2回、職場の宴会でビール1～2本

(女性患者の場合) 月経：順調で妊娠の可能性なし

◇家族歴

特に問題なし

◇医師の質問に対する対応上の注意点

1. 「ほかに何か症状はありませんでしたか？」などと漠然と質問された場合

⇒「特に思い当たりません」と答える。

2. 具体的な症状を一度に複数質問された場合

⇒聞かれたものすべてに答える。

(例) Dr「むくみや吐き気はありませんか？」

SP「むくみは感じません、吐き気もありません」

3. 話が進まなくなり、「言い忘れたことは？」と聞かれた場合

⇒患者の気持ち等、話していないことが多くても「特にありません」と答える。

4. 台本にない内容のことを質問された場合

⇒「特に問題ない」「覚えていない」あるいは自分のこと（例えば食べ物の好みなど）を述べる。プライベートなことと言いたくないことは言わない。ただし、そのことは、どの受験者に対しても言わない（対応に一貫性を持たせる）。

◇その他の設定

待機している間に、膝の屈伸などの軽い運動をして、心拍数を増やしておく。

	2	1	0
【インタビューのプロセス】			
1. 自己紹介をした		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 最初は患者が自由に話せるように配慮した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 適度に視線を合わせていた		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 共感的な態度を示した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. プライバシーに配慮した態度を示した		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
【インタビューのコンテンツ】			
6. 発症時期（1か月前）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 動悸の持続（持続性）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 動悸は規則正しいか（規則正しい）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 痛み（痛くない）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. 呼吸苦（呼吸は苦しくない）			
11. 増悪・軽快要因（体動で増悪）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12. 症状の変化（少しずつ増悪）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13. その他の症状（疲れやすい）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14. 首の腫れ（よくわからない）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15. 眼球突出（同僚からの指摘あり）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16. 発汗増多（あり）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17. 食欲（以前と変わらない）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18. 体重変化（2キロ減）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19. 便通（普通に毎日）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20. 発熱（感じていない）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21. 手の振るえ（なし）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
22. 解釈モデル（心臓が止まるのでは）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
23. 既往歴（特になし）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
24. アレルギー（特になし）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
25. 服薬（特になし）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
26. タバコ（吸わない）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
27. 飲酒（少量のみ）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
28. （女性患者の場合）月経歴（異状なし）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
29. 家族歴（問題なし）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
合計点 31（男性患者の場合は30）点満点			点

← 良 い | 良くない →
【概略評価】 6 5 4 | 3 2 1

（この医療面接全体の印象を6段階で評価して番号に丸をつける）

【計時開始】

試験開始と同時にストップウォッチで経過時間を測定し始める。

【インタビューのプロセス】

1. 自己紹介をした

挨拶の言葉と共に、丁寧な言葉で、はっきりと自己紹介できていれば1点。できていなければ0点。

2. 最初は患者が自由に話せるように配慮した

「今日はどういうことで来られましたか」という類の医師の質問に対して、患者さんが話し始めるが、それに対して医師がすぐに会話の主導権を奪って矢つぎ早に closed question で質問攻めするのではなく、open-ended question をうまく使って、なるべく患者が自由に話ができるように配慮したかどうかをみる。患者の話が続くようならそれを遮らずに聴き、話が途切れたようでも一呼吸おいて話が続くのを待ち、患者があまり話さないようならもう少し詳しく述べるように促していれば2点。すぐに話を遮ったり主訴の直後から質問攻めにしていたら0点。その中間は1点。相槌、うなずきは遮りとはみなさない。「それはいつ頃からですか」「どのあたりなんですかね」などの質問は遮りとみなす。

3. 適度に視線を合わせていた

ずっと合わせている必要はない。適切と思われたら1点。できていなければ0点。

4. 共感的な態度を示した

十分に共感的と思われる態度を示したら2点。共感的態度が全く見られなかったら0点。その中間は1点。

5. プライバシーに配慮した態度を示した

十分に配慮していると思われる態度を示したら1点。不足していると思われたら0点。

【インタビューのコンテンツ】

6. 発症時期

「1か月前」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。

7. 動悸の持続

「持続性」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。

8. 動悸は規則正しいか

「規則正しい」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。

9. 痛み

「痛くない」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。

10. 呼吸苦
「呼吸は苦しくない」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
11. 増悪・軽快要因
「体動で増悪」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
12. 症状の変化
「少しずつ増悪」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
13. その他の症状
「疲れやすい」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
14. 首の腫れ
「よくわからない」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
15. 眼球突出
「同僚からの指摘あり」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
16. 発汗増多
「あり」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
17. 食欲
「以前と変わらない」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
18. 体重変化
「2キロ減」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
19. 便通
「普通に毎日」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
20. 発熱
「感じていない」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
21. 手の振るえ
「なし」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
22. 解釈モデル
「心臓が止まるのでは」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
23. 既往歴
「特になし」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。
24. アレルギー
「特になし」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。

25. 服薬

「特になし」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。

26. タバコ

「吸わない」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。

27. 飲酒

「少量のみ」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。

28. (女性患者の場合) 月経歴

「異常なし」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。

29. 家族歴

「問題なし」を明らかにできていれば1点。明らかにならなかったら0点。

【概略評価】

この医療面接全体の印象を6段階で評価して、番号に丸をつける。

【5分経過したら】

「5分たちました。あと2分です。」と、受験者に告げる。

【7分経過したら】

医療面接の途中であっても、「7分たちましたから、そこまでで終了しなさい。」と、受験者に告げる。ストップウォッチは止めない。

【医療面接が早く終了したら】

「まだ7分たっていませんが、医療面接を終了しますか。それとも続けますか。」と、受験者に問いかける。

→「続ける」と答えた場合は、「それでは、続けなさい。」と、受験者に告げて医療面接を再開させ、7分経過するまで続ける。

→「終了する」と答えた場合は、「追加の情報や課題を見ますか。それとも7分経過するまで休みますか。」と、受験者に問いかけ、それに対する返事に沿って進める。

ステーション 3 (課題 2)

(試験開始 7 分後に提示する)

患者：浮田 浩(浩子) ○○歳 男(女)性

バイタルサインは以下の通りでした。

血圧120／60mmHg	脈拍96／分
呼吸数15／分	体温37.2℃

4 分間で身体診察をなささい。(3 分間経過した時点で合図します)

ただし、最も重要と思われる項目から診察を始めなさい。また、診察しながら、患者に所見を説明しなさい。

身体診察終了後に、次の課題を示します。

【患者への配慮】

- 1. 開始時に診察をする旨を告げ了承を得る
- 2. 諸診察に合わせて適切に声をかける
- 3. 声をかけるときの言葉づかい
- 4. 手を温める

2	1	0
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【診察手技】

甲状腺の診察

視診

- 5. 前頸部の膨隆を視診
- 6. 頸部を軽く後屈位にして視診
- 7. 嚥下してもらいながら視診

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

触診

- 8. 輪状軟骨の位置を確認
- 9. 甲状腺両側葉の触診
- 10. 嚥下してもらいながら触診
- 11. 甲状腺の圧痛を確認
- 12. 頸部リンパ節を触診

	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

その他

- 13. 頸部血管雑音を聴診
- 14. 気管の変位を診察
- 15. 胸鎖乳突筋裏を触診
- その他の部位の診察
- 16. 不整脈の有無を診察（触診,聴診）
- 17. 呼吸状態を視診
- 18. 皮疹を視診
- 19. 貧血の有無を診察（結膜,爪床,舌など）
- 20. 頸静脈の怒張を視診
- 21. 呼吸音を聴診
- 22. 胸水の有無を打診
- 23. 心尖拍動を触診
- 24. 心音を聴診
- 25. 肝脾腫を診察
- 26. 肝臓の叩打痛
- 27. 下腿浮腫の有無を触診

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

合計点 29点満点

点

← 良 い | 良くない →
【概略評価】 6 5 4 | 3 2 1

（この医療面接全体の印象を6段階で評価して番号に丸をつける）

身体診察評価マニュアル

【患者への配慮】

1. 開始時に診察をする旨を告げ了承を得る
告げていれば1点。告げなかった場合は0点。
2. 諸診察に合わせて適切に声をかける
ほとんどすべての診察で適切に声をかけていれば2点。一部で声をかけた場合は1点。全く声をかけなければ0点。
3. 声をかけるときの言葉づかい
言葉づかいに問題が無ければ1点。問題があれば0点。
4. 手を温める
患者にふれる前に手を十分に暖めていれば1点。暖めなければ0点。

【診察手技】

注) 患者に説明せずに診察している場合は、「診察しながら、所見を患者さんに説明してください」と繰り返し声をかけてください。

甲状腺の診察

視診

5. 前頸部の膨隆を視診
前頸部の膨隆を視診すれば1点。しなければ0点。
6. 頸部を軽く後屈位にして視診
前頸部の視診の時に頸部を軽く後屈してもらえれば1点。させなければ0点。
7. 嚥下してもらいながら視診
前頸部の視診の時に嚥下してもらえれば1点。させなければ0点。

触診

8. 輪状軟骨の位置を確認
甲状腺を触診する前に、輪状軟骨の位置を視診あるいは触診で確認すれば1点。しなければ0点。
9. 甲状腺両側葉の触診
甲状腺両側葉の触診をすれば1点。位置がずれていたり、側葉の触診をしなければ0点。
10. 嚥下してもらいながら触診
甲状腺側葉を触診するときに嚥下してもらえれば1点。させなければ0点。
11. 甲状腺の圧痛を確認
甲状腺側葉を触診するときに患者に圧痛を確認すれば1点。しなければ0点。

12. 頸部リンパ節を触診

頸部リンパ節をほぼ全体的に触診すれば2点。一部だけ診察すれば1点。何も診察しなければ0点。

その他

13. 頸部血管雑音を聴診

頸部血管雑音（動脈の bruit あるいは静脈コマ音）の有無を聴診すれば1点。しなければ0点。

14. 気管の変位を診察

視診あるいは触診で気管の変位を診察すれば1点。しなければ0点。

15. 胸鎖乳突筋裏を触診

胸鎖乳突筋の裏に指を押し込んで甲状腺側葉を触診すれば1点。しなければ0点。

その他の部位の診察

16. 不整脈の有無を診察

視診あるいは聴診で不整脈の有無を診察すれば1点。しなければ0点。

17. 呼吸状態を視診

呼吸状態を視診すれば1点。しなければ0点。

18. 皮疹を視診

顔面と四肢と体幹の3つ全てで皮疹を視診すれば1点。一部のみの視診で終了した場合、あるいは皮疹の診察を何もしなければ0点。

19. 貧血の有無を診察

結膜や爪床や舌などの1か所以上で貧血の有無を診察すれば1点。しなければ0点。

20. 頸静脈の怒張を視診

頸静脈の怒張を（座位あるいは半仰臥位で）視診すれば1点。臥位で診察した場合、あるいは何も診察しなければ0点。

21. 呼吸音を聴診

呼吸音を聴診すれば1点。しなければ0点。

22. 胸水の有無を打診

胸水の有無を打診で確認すれば1点。しなければ0点。

23. 心尖拍動を触診

心尖拍動を触診すれば1点。しなければ0点。

24. 心音を聴診

心音を聴診すれば1点。しなければ0点。

25. 肝脾腫を診察

肝臓と脾臓の両方を診察（打診あるいは触診）して、肝脾腫の有無を確認すれば1点。片方のみの診察で終了した場合、あるいは診察を何もしなければ0点。

26. 肝臓の叩打痛

肝臓の叩打痛を確認すれば1点。しなければ0点。

27. 下腿浮腫の有無を触診

下腿浮腫の有無を触診すれば1点。しなければ0点。

【概略評価】

この身体診察全体の印象を6段階で評価して、番号に丸をつける。

【10分経過したら】

「3分たちました。あと1分です。」と、受験者に告げる。

【11分経過したら】

身体診察の途中であっても、「4分たちましたから、そこまでで終了しなさい。」と、受験者に告げる。ストップウォッチは止めない。

【身体診察が早く終了したら】

「まだ4分たっていませんが、身体診察を終了しますか。それとも続けますか。」と、受験者に問いかける。

→「続ける」と答えた場合は、「それでは、続けなさい。」と、受験者に告げて身体診察を再開させ、11分経過するまで続ける。

→「終了する」と答えた場合は、「追加の情報や課題をみますか。それとも4分経過するまで休みますか。」と、受験者に問いかけ、それに対する返事に沿って進める。